

# 国有林野所在市町村の魅力紹介

国有林野の所在している市町村は、自然豊かで、おいしい食べ物や名産品も多くあります。その魅力をふんだんに紹介しています。



## 青森県東津軽郡外ヶ浜町

青森森林管理署

人口 4,803人 (R7.12.31現在) 面積 230.30km<sup>2</sup>

市町村の木 マツ

市町村の花 アジサイ

青森県の津軽半島北東部に位置する外ヶ浜町は、平成17年に蟹田町、平館村、三厩村の3町村が合併して生まれました。津軽国定公園龍飛崎をはじめ、風光明媚な景観の観光資源等を受け継ぎ、海と山と川の恵みとともに生きる町です。

日本史上ひとときわ人気の高い人物である「源義経」。1189年（文治5年）、兄である源頼朝の手により平泉の地で悲劇の死をとげたとされる義経ですが、ここ外ヶ浜町三厩地区には、源義経が追撃をかくぐって平泉を脱出、北へ向かい



義経寺観音堂

龍飛崎を渡って蝦夷地（北海道）へ向かったという「義経北行伝説」が伝えられています。義経寺、甲岩、厩石、帯島など義経一行が歩んだ足跡をたどれます。

津軽国定公園龍飛崎は津軽半島の最北端。北海道の白神岬とは津軽海峡を挟んで19.5kmの距離があり、地下を青函トンネルが通ります。晴れた日には北海道を見渡すことができます。海沿いから龍飛崎灯台方向に延びる全362段、日本で唯一



津軽国定公園 龍飛崎

の階段国道があり、もとは生活道路として利用されていましたが、1974年に国道に指定されました。

平館灯台は、全国的にも珍しい国道沿いに立つ白亜の灯台。明治32年にできた西洋式灯台で、高さは23メートルあります。周囲にはクロマツ並木や西洋式台場の土濠が扇状に残っており、平館海峡を航行する船舶を100年以上にわたり見守ってきました。



平館灯台

史跡「<sup>おおたひやまもと</sup>大平山元遺跡」は、令和3年7月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成遺産の1つとして世界文化遺産に登録されました。遺跡では約1万5千年前に使われていたとされる北東アジア最古級の土器片が発掘されており、縄による文様がない「無文」であることが特徴的です。これら土器片は国の重要文化財に指定され、展示施設「むーもん館」では、同じく指定品の石器類も間近で見学することが可能です。



展示施設「むーもん館」

(掲載写真はすべて外ヶ浜町より提供)

より詳しい市町村の魅力はこちらから→



お問合せ先：外ヶ浜町産業観光課 Tel. 0174-31-1228